

7・1有明でカズ・ハヤシが一夜限定復帰する理由

## 試合でも告知動画のテンションでいきます！

2024年7月1日の3周年記念大会(TDCホール)で32年に及ぶ現役生活に終止符を打ったカズ・ハヤシはその後、執行役員として会社に尽力してきた。そうした中で、いきなり組まれた限定復帰戦(カズ・ハヤシ&田中稔vs丸藤正道&鈴木鼓太郎)。引退ロードで対戦を望みながら実現せぬままに終わったプロレスリング・ノアの丸藤との再会が注目されているが、本人はどのような思いで一夜限りながらもリングに上がることを決意したのか。Xにポストされる告知動画のハイテンションぶりから一転し、落ち着いた口調で答えた。(聞き手・鈴木健.txt)



## プレイヤーとしてよりも 愛社精神。社長の打診に即答

——「G-CLASS 2026」1回戦の5・13新宿FACE大会で、7・1SGC HALL ARIAKEでの限定復帰が発表されたあとの周囲のリアクションはどんなものでしたか。

**カズ** いや、いい反応ばかりでしたよ。頑張って、楽しみにしていると、そういう声しか私のもとには入ってきていません。

——それはよかったです。今回の一夜限りの復帰というのは、最初の時点でこのカードとして提示されたのか、それとも5周年記念大会だからという理由で決まったのか、どちらだったんでしょう。

**カズ** 一緒ですね。発表された日の1週間ぐらい前だったかな、土曜か日曜で会社になくて、電話で鈴木社長から「試合できます？」って打診があったんですけど、その中で丸藤さんとやりませんか？っていう流れになって。即答でした。

——復帰戦が即答！

**カズ** 会社のためだったら、やりますよ。だからこれは会社業務の一環としてやるようなものです。もちろん丸藤さんと対戦できるのであればというのも



あったけど、まずは自分がGLEATのためになれるかどうかですから。

——プレイヤーとしてよりも愛社精神の方が前に来るといふ。

**カズ** そうじゃなかったら、話をされた時にいろいろ考えたと思うんです。体調は大丈夫なのか、受け身はとれるのかとか。でも、そういうことを考えるよりも先に会社のことを思ったら、ここはやるだろうってなりました。プロレスラーを引退してGLEATの社員としてのセカンドキャリアをスタートさせた時点では、自分が社員になることがGLEATにとっていいことなのか悪いことなのかまではわからなかったんです。即戦力になれるかなんて、わからないじゃないですか。だから愛社精神というよりは自分の意向を会社が汲んでくれた。でも今回は、愛社精神が動機になっている気がします。

——現実問題として、準備は必要ですよな。

**カズ** もちろん。社長も「無理であることは重々承知しておりますが…」という言い方でしたしね。2年間、プロレスに関することは何もやってこなかったですけど、やれる自信があるかどうかよりも、目の前にある7月1日に向けて練習をできる限りやっています。稔さんと練習して追い込んでもらっているんですけど、始めた時は筋肉痛どころの騒ぎじゃなかったです。

——この2年間で、復帰したいと思ったことはなかったんですか。

**カズ** ないない。引退したあとに選手たちの試合を見るとまたやりたくなるのでは？ってけっこう言われたんですけど、それがまるでなかったんです。

——ちゃんと、引退試合でやりきった？

**カズ** やりきった？ やりきった…っていう言葉はわからないな。次にいこう、それだけだったから。プロレスラーの次はプロレスに関わる仕事。最後の試合が終わった時点で、もう次っていう感覚でした。

——この2年間はどんな業務をやってきたのでしょうか。

**カズ** いろいろとやらせていただきました。一つの興行をちゃんと最初から最後まで…お客さんに入り口から出口まで楽しんでもらえるようなものを作る

ということです。ほかには選手が安全に試合をできたり、トレーニングできたりするための環境作り。それを僕一人でやるんじゃなく、リデットエンターテインメントの社員さん方がいるので一緒にやっています。会場でしかお客さんには見られていないですけど、それ以外のところでもいろいろあるじゃないですか。チケットに関して、営業もそう、たくさんあることをやる一人のスタッフです。

——プロレスラーを続けていたら得られなかったものは何かありましたか。  
**カズ** どうしてもプロレスラーだと“個人”になるから、スタッフ間の信頼関係って見えにくいじゃないですか。そこに関しては一緒に愛を持って一つの興行を形にしていく中で実感できています。より、チーム的なものは味わえている。助け合ったり、声をかけ合ったりすることで物事が進んでいく環境ですよな。

——ザ・グレート・サスケ率いるみちのくプロレス時代は、そういう感じではなかったんですか。

**カズ** サスケさんも自分で社長をやりながらチームを作っていたんでしょうけど、やっぱり僕らはプロレスラーですからスタッフの人たちが実際にどう動いているかまでは見えていなかったんですよ。それがこっち側に回ったことによって実感できるようになって、なおかつスタッフ一人ひとりも愛を持って興行を成り立たせようと努力しなければできないんだってという当たり前のことを、日々感じている次第です。

——それで自分もやらなければと、Xにアピール動画をアップするようになったんですか。

**カズ** 引退した年末のビッグマッチ(12・30TDCホール)に向けて、僕の顔を出して宣伝してくださいと社長に言われたのがきっかけでした。その時点でもまだ会社に入って手探り状態だったんですけど、顔を出してやっていいのかわかって。やるならガッチリとやらないと伝えたいものも伝わらないじゃないですか。それでちゃんと真面目にやろうとなりました。

——あのテンションが、林執行役員が考えるところの真面目な形なんですね。

**カズ** ええ。これはプロレスから教わったことなんですけど、みんなと同じことをやっていたらダメなんですよ。自分のオリジナルの技を考えたり、オリジナル入場テーマ曲、マイクパフォーマンスのどれもが個性にあふれていたりしないと届かない。それでまずは個性を作らないといけないということから考えて…まあ、格好だったり喋り方であったり、あとは人がやらないことを採り入れて、ああなったんです。これもプロレスからの学びですけど、一生懸命!カッコ悪いことでも一生懸命やっていけばカッコよく見えてくる。ふざけてやっているのではなく、一生懸命に宣伝したいという気持ちだけを出しているだけなんです。

——ヘタすると現役の時よりもテンション高めなのではというのが、街の声です。私も、何人かのカズ・ハヤシというプロレスラーを知る人間から「健さん、最近のカズさんの動画見ましたか?とんでもないことになっているから見た方がいいですよ」と言われていたんです。かなり衝撃的だったようです。主に元WRESTLE-1方面ですが。

**カズ** (サラリと)ああ、本当ですか。まあ、いろいろアップデートはしていかななくちゃいけないですから。

——あれはアップデートされたカズ・ハヤシなんですね。

**カズ** えーと…引きずらない。レスラーをやっていたからこういう感じのものをドン!というやり方じゃなくて今、僕はここで頑張っています、リングとは違う会社の中でやっているんですけどというのが僕の中ではアップデートなんですよ。それがあの形ですね。

——WCW時代のプロモ経験が活かされているのかと思いました。

**カズ** あんなテンションではやっていなかったですよ!でもすべてはプロレスから得られたものなので、こみこみと言えるかもしれない。プロレスをやって

いなかったらあの形もなかっただろうし、もしかすると普通に告知した方が世間の人たちには伝わるのかもしれないけど、僕自身があの形でやっていこうって決めたんで。

——毎回「一生のお願い」って言っているじゃないですか。一生のお願いというのは複数あるという認識なんですか。

**カズ** 複数…。

——一般的に一生のお願いというのは、一生に一度きり、最大級のお願いの時に使うものと位置づけられていると思われませんか。

**カズ** 数えたことはないです。

——数えてはいないと思われませんが、明らかに複数回お願いしていますよね。

**カズ** あのですね、その時の思いは「一生のお願い」なんですよ、嘘偽りなく。それは毎回同じぐらいの思いで変わりがない。

——普通は一生のお願いを何度もしたら遠慮して言えなくなるものですが、同じ気持ちなんだから嘘はつけないと。

**カズ** そうそう。一生のお願いって、一回なの？

——まあ、そうは言うても私も生きている間に複数言っているとは思いますが。

**カズ** そうでしょ？「絶対にGLEATは面白いですから、見に来てください！」っていうお願いを一度しかしちゃいけないなんて、そんなことはないじゃないですか、毎回面白かったら。

——では、何度も一生のお願いをすることに躊躇はないと。

**カズ** ないないないない。まったくおかしいと思わないから、躊躇なんてしませんよ。

——それで、その告知動画を撮影するたびに鈴木社長を呼び出しているんですね。

**カズ** そうです。最近では、選手も出るようになりましてけど。社長を呼び出すと、なぜかレスラーもついてくるようになりました。

——あれ、決まった場所のようですが、どこで撮っているんですか。

**カズ** 会社近くの皇居前なんですけど、あそこが僕的になぜなのかもものすごいパワースポットに感じていて。というのも、そこで撮るとチケットの売れ行きが伸びるんです。

——ちゃんと実績に結びついているんですね。

**カズ** だから社長もお忙しいとは思いますが、わざわざあそこまで呼び出しているんです。

——呼んでもいないのに選手が来るようになったのは、そこがパワースポットであることに気づいたからじゃないんですか。

**カズ** (突じょ受けまくり) そんな、そんなこと思っているんですか!?

——動画越しに伝わってくるのでしょうか。「このカズさんを見ると、ここがパワースポットだとしか思えない」という感じで。

**カズ** だとしたら嬉しいですね。



## 2年遅れのボーナスストラック 社員として頑張ってきたギフト

——7月1日の試合の方も、あのテンションでいくつもりですか。

**カズ** 何十年もやっていると力の入れ方や分散の仕方というのが感覚でわかっていたと思うんですけど、今回に関しては最初から飛ばしていくでしょうね。

——現役の頃はキャリアを重ねるにつれて、いい意味で落ち着いていったのが、まるで若返ったかのように弾ければ、かつてとは違うカズ・ハヤシが見られるという期待を持てます。

**カズ** うん、別モノになると思います。ベースは過去に培った部分ですけど、闘うペースとかそういうものに関しては、最初からガンガンいかなくちゃというようになりそうなんだよなあ(自分へ言い聞かせるかのように)。

——本当に、動画版テンションのままリングに上がってほしいです。

**カズ** なります。なっちゃいます。だって、急にインサイドワークとかそういうのは思い出せないもん。受け身とかは練習を積むうちに体が思い出してくるけど、インサイドワークは実戦から離れるとパッと出てこない。

——あと、ブランク明けの試合でカギを握るのは、攻める動きよりもむしろ相手の技を受けた時の体の耐久力ですよ。

**カズ** 2年間、プロレスの技を受けていなかったですからね。これは復帰戦をやる前から感じていたことですけど、痛さって慣れるものなんですよ。プロレスをやっていた頃なら痛いなんて感じなかったこと…日常の中で、ちょっとぶついたりするものじゃないですか。そういうのも「うわっ、痛っ！」って声を出しちゃうようになって、プロレスラー時代はある意味免疫ができていたんだなって思いました。

——今はその免疫が抜けている状態です。



**カズ** 抜けまくりですよ。どこかにぶつけた時だけじゃなく、腰痛だったり頭痛だったりも堪えるようになりました。

——それはプロレスをやめたからというよりも、年齢からくるものなのでは。

**カズ** 昔の後遺症です。腰も首も(不調を)持っているんで。とはいえ、7月1日までは一試合もやらないから戻るはずがない。だから、痛い思いをすることに対する覚悟を相当決めて耐久するしかない。やるからにはその時点での100%を出し切るつもりですけど、こればかりはやってみるまでわからないですね。

——嫌な情報をお伝えしますが丸藤選手が最近、パーフェクト・ネックロックというギブアップを獲る技に磨きをかけておりまして。この技で黒潮TOKYOジャパン、ハヤブサ、高木三四郎といった強豪たちが軒並みタップアウトを喫しています。

**カズ** ……(声を失う)。頑張ります。どんな結果になっても、一回こっきりですから。



——限定復帰だから、やはり一度限りなんですね。仮に「会社のためにもう一度出てもらえませんか?」と打診されたらどうしますか。

**カズ** それ、言う?会社。

——わかりませんよ。

**カズ** いや、僕は鈴木社長、言わないと思いますけど。だから会見でも言ったように僕の中のテーマは「続きのないプロレス」。現役の人たちは勝っても負けても、チャンピオンになってもなれなくてもその次を見せていくものですけど、僕の場合は一話完結。引退前に闘いたい相手として言いながら実現しなかった丸藤選手と組んでくれたことは本当、鈴木社長とプロレスリング・ノアさんに感謝しています。

——当時、丸藤選手の名前を出していたんですね。

**カズ** 厳密には鈴木社長に言っていただけで、表には出していなかったです。タクシーに乗っている時ですね。引退までにやりたい選手の名前を何人か出した中に、丸藤さんもあげて。

——それはやはり、2009年2月6日の世界ジュニアヘビー級戦が忘れられなかったからですか(全日本プロレス在籍時、ノアに流出していたジュニアの至宝をカズが奪回。ベストバウト級の内容に、今なお語り継がれている)。

**カズ** 自分の中でもいい試合として残っていて、かつ試合を楽しめた相手として名前が出たんだと思うんですけど…確かにあの一戦はジュニアの枠を超えたものになったと思うし。というのは、当時の全日本でジュニアが後楽園の



メインになることはなかったですから、そこはブチ壊せたと思うんですね。札止めになるほどみんなが期待してくれたし…話しているうちに思い出したんですけど、僕たち二人も闘いながらそのお客さんの期待感に応えようとしていたんですよ。だから、自分の引退ロードの中で最後に丸藤選手とは絡んでおきたかったんですけど、思っていた以上にあっという間に過ぎて行ってタイミングがなかった。僕は会社間の関係というものがどういうものなのかはわからなかったんですけど、おそらくあの時点では難しい状態だったんでしょうね。——ということは、2年遅れてやってきたボーナストラックのようなものですね。

**カズ** ああ、そうですね!それでいきましょう。

——あとは会社の間人として2年間頑張ってきたことに対するギフトではないかと。

**カズ** なるほど。確かに、呼ぼうと思って簡単に呼べる選手じゃないわけですし、そこは形にするまで大変なこともあったでしょうから、その上で組んでいただけなのは一生懸命やってきてよかったです。

——丸藤選手との再会ばかりに目がいきがちですが、そのパートナーが鈴木鼓太郎選手というのも気をつけなければなりません。

**カズ** もちろん。言うなれば、向こうはノアにゆかりのあるチームで、こっちはあの頃の全日本ジュニアにいた二人。2009年はシングルでの全日本vsノアだったけど、今回はそのタッグマッチ編みみたいな感じですよ。確実に、この日にしか見せられないものになります。その中で、一日限定復帰の意味を試合の中で見せたい。頑張れと言ってくださる方に対してその気持ちに応えることも、復帰に対し否定的な方にもなぜ僕が闘うのかを伝えたいです。

——引退試合でテンカウントゴングを鳴らさなかったのも、正式には引退ではなく2年間の休業だったのではという説もあります。

**カズ** いやいや、あれは本当に当時も言いましたけど湿っぽくならないためでしたから。あとは、テンカウントゴングってやっぱりそこが最後、ラストという意味で鳴らされるわけじゃないですか。僕の場合はプロレスラーをやめて次!っていう感覚だったから、最後だとか終わりという意識があまりなかったんですよ。翌日には社員林和広として入社したんで、途切れ目のようなものはなくて。だから今回も、7月2日には入社して夜には王子大会にいらしているはずですよ。

——わかりました。団体として5年間継続できたことに関してはどうな思いですか。

**カズ** これは続いてくれていることに感謝なんですけど、5年経つよりも先にGLEATという時代を創ってきているなという気がします。プロレス業界的にはちょっと特殊な存在であるとか、世間の認知度的にはまだまだ上を目指していかなければならない立場ではありますけど、スピード感はつかめています。今は、ここだけを見ていればすべてを知ることができるというメディアが少なく、逆に見る対象がたくさんある中でも、GLEATは浸透度のスピードが出てきている感覚が僕にはありますね。

——確かにGLEATは自己発信のフットワークが軽いですよね。

カズ そういう下地はこの5年の中で創れたんだから、あとは選手やスタッフが熱を持って進んでいけばさらに広がっていくと信じているんで。その中で5周年大会はより多くの人たちに見てもらえるチャンスじゃないですか。ここで勢いをつけられたら、一気にいけると思うんですよね。

——SGC HALLというプロレス初進出の会場でやるだけでも、注目度は上がります。

カズ プロレスって試合もそうですけど、会場の雰囲気も楽しむ対象でしょう。これまでのプロレス会場とは明らかに違うものが味わえるので、それを楽しみに足を運んでいただくのもありだと思います。本当にね、みんなが「GLEATを応援してよかった」と思ってもらえるようにという姿勢で、7月1日に向かっていきます。その中で、もしもカズ・ハヤシが試合をやるからいってみようという方がいるのであれば、これをきっかけにGLEATを好きになっていただきたいです。

——ちなみに、コスチュームは手元に残してあるんですか。

カズ コスチュームは…ほとんどあげちゃいました。

——じゃあ、どうするんですか。

カズ どうしましょう?全然考えていなかったです、ウハハハハハッ!そこも、僕の思いを入場時から見せていきますよ。続きのないコスチュームで出ます。



GLEAT 5周年記念大会

**G-REXタイトルマッチ**  
エル・リンダマン vs T-Hawk

カズ・ハヤシ 田中稔 旗揚げ 5周年記念試合 丸藤正道 鈴木鼓太郎

エル・フィスケル 渡辺壮馬 ARASHI GLEAT×AAAスペシャル6人タッグ アビス・ネグロツェニア S B K NOBU SAN

休憩

**LIDET UWF世界王座戦**  
伊藤貴則 vs 関本大介

**G-INFINITYタイトルマッチ**  
KAZMA SAKAMOTO 石田凱士 vs プラスナックルJUN ロック岩崎

田村ハヤト 河上隆一 山村武寛 ジュンジュ 小峠篤司 モハメドヨネ 大原はじめ 清宮海斗

MICHIKO ちゃんよた 小橋マリカ 稲葉あずさ ウナギ・サヤカ 笹村あやめ 神姫楽ミサ ノア・ヒカリ

井土徹也 飯塚本鷹 山愛 中嶋勝彦 ケンドーガシン 青木真也 藤田和之 リアル闘魂ストロングスタイルズ(仮) with 藤田和之

オープニングセレモニー

第0試合 18:00 START G-INFINITY 発明挑戦者決定戦 Gランブル 5WAYイリミネーションタッグマッチ  
大門寺崇&JDリー 青木優也&入江茂弘 カケル&ジャック&かびい 佐藤\*恵一&木下亨平 稲畑誠己&瑠希也

※ケガや諸事情により選手が参加できない場合がございます。

**7.1水** 東京・SGC HALL ARIAKE  
開場 17:30 開始 18:30 ※第0試合は18:00開始予定 GLEATプロレス 検索

主催 リデットエンターテインメント株式会社  
協力 クリエイティブマンプロダクション・EXエンタテインメント GLEAT LIDET ENTERTAINMENT

お問い合わせ リデットエンターテインメント株式会社 エンターテインメント事業部 03-5219-7717 (平日 11:00 ~ 19:00)